

年 組 名前：

問1

徳島堰が、登録記念物(遺跡関係)となる見通しの記事です。

この水路は、何のために造られたのですか。

.....  
.....  
.....

問2

次の文章の①から⑩に当てはまる言葉や数字を答えてください。

『徳島堰は、①年に着工し、5年後に完成。

韮崎市②から南アルプス市③までの全長約④キロに、⑤川から取水した水を行き渡らせた。

⑥年以上たった今も、農業用地⑦を、

水田⑧を潤し、⑨にも利用している。』

国の文化審議会は17日、韮崎、南アルプス両市を通る農業用水路「徳島堰」を登録記念物(遺跡関係)に選定するよう未松信介文部科学相に答申した。告示を経て登録される見通しで、七里岩(韮崎市)に次いで県内2例目の登録記念物となる。

「徳島堰」登録記念物へ 文化審答申 県内で2例目



登録記念物になる「徳島堰」 南アルプス市飯野新田

両市によると、徳島堰は釜無川右岸地域に農業用水を供給するために造られたかんが

い用水路。江戸前期の1665(寛文5)年、江戸の商人徳島兵左衛門俊正が着工した。水害で工事を断念したが、甲府藩が事業を引き継ぎ5年後に完成。御勅使川などの川や沢の下に樋を埋めるなどの工法を駆使して、韮崎市田野町上戸井から南アルプス市飯野新田まで全長約17キロに、釜無川から取水した水を行き渡らせた。

昭和40年代に全線コンクリート化。スプリングライ網を敷設するなどし、開削から350年以上たった今も、サクランボやスモモなどの果樹農地1778畝、水田750畝を潤している。水力発電にも全国で3例目になる。

登録に向けては、徳島堰土地改良区と釜無川右岸土地改良区連合、韮崎市、南アルプス市が連携し、5年ほど前から準備を進めてきた。徳島堰土地改良区の藤原芳洋理事長は「先人たちが苦勞して開削し、地域を潤してきた用水路。後世に残す価値ある財産として認められ、これからも大事に維持管理して伝えていきたい」と話し、看板設置などを計画している。

(2022年6月18日付 山梨日日新聞 25面)

求めた。史跡・名勝・天然記念物は計3346件、登録記念物は128件となる。  
(桑原久美子)

①..... ②..... ③..... ④.....  
⑤..... ⑥..... ⑦..... ⑧..... ⑨..... ⑩.....

問3

あなたが知っている史跡・名勝・天然記念物を、いくつでも書いてください。

.....  
.....